

## 学生生活を振り返って

梅山 翔平 (No. 4420)

本年度奨学金返還免除を頂きました梅山翔平と申します。筑波大学医学部での学生生活に関して今回の免除を頂きましたが私はこの筑波大学は2回目の大学生生活となります。

私は高校を卒業後東京大学理科2類に入学、理学部生物学科に進学し、卒業したのち筑波大学医学部に学士編入いたしました。樫の芽会のご援助、親の寛容さのおかげで9年間という長大な学生生活を無事に終え、現在筑波大学附属病院初期研修医として社会人生活をスタートすることができています。9年間という長い大学生生活でしたが、大変充実した大学生生活でした。

医師として働いて半年を迎えました。この投稿では学生生活を振り返りつつ、一つお伝えできればと思います。この振り返りが樫の芽会会員様、学生の皆様のなんらかの参考になれば幸いです。お伝えしたい内容は以下のことです。



『学生のうちに色々やってみることにやはり価値があった』

“そんなの当たり前じゃないか”という内容です。どんな自己啓発の本にも書いてありそうな内容です。ですが私は色々やってみた結果が世の中でよく語られる成功ストーリーと若干異なる気がしておりますので敢えて取り上げたいと思います。

先程紹介させて頂いたように私の大学生生活は様々な方の寛容な心から成り立っています。家柄も別に裕福ではないので親には大変な迷惑をかけました。普通であれば大学生活を9年（浪人を含めると10年）もさせてもらうことなどあり得ないと思います。そのため筑波大学に入ってからはこの頂いた恩をどこかに貢献して返さなければならない、そのために意識高く生きていかなければならないという思いがどこかにありました。

そのため、筑波大学に入って2年ほど経って医学の勉強が落ち着いた頃から周囲の勧めもあり、公衆衛生系の研究室に行くようになりました。また、周囲のモチベーションの高い学生に合わせて医療の未来を考えるような勉強会に積極的に参加したり、勉強会の主催側に回ったりしていました。幸いいくつかの活動が評価され、大学の同窓会賞である“茗溪会賞”を頂くことが出来ました。さて、ここで僕の考える一般的な成功ストーリー“では、この研究室や勉強会で素晴らしい出会いや発見に恵まれ、この道で生きていこうと心を決め邁進し、医療を変えるような研究

を行い成果を出していく、ということになります。当然これが理想的だと私も思います。しかしこの点に関して僕はそうなりませんでした。残念ながら非常にしんどかったです。薄々1回目の大学生活で気づいてはいたのですが、私は研究があまり得意ではありません。また大勢の知らない人と意識高く未来を語り合うのが苦手です。そんなことでは困る場面も多いのですが、やってみてよりはっきりとしました。私以上にこれをやるべき、そしてやりたい、能力のある人は世の中にいると感じました。

それならお前は何をして生きていくのかという事になります。幸い医師を始めて（といってもまだ数ヶ月でわかったような事をいうのは誠に恐縮ですが）一般の臨床、つまり外来や病棟で患者さんの訴えを聞いてその場の医療をマネジメントしていく事は好きで、向いていそうだと感じています。そのため、今のところ普通に医師として患者と向き合う事で臨床をしっかりと行う事が自分の道と考えています（これ自体が難しいことですが…）そして機会があつて、必要があれば研究や教育などにもチャレンジできればと考えています。医学部入学時の私の価値観からするといわゆる『普通の医者』です。そのため仮に様々な活動をした経験がなければ相変わらず優柔不断にこれでいいのだろうかと思い続けていたと思います。周囲のモチベーションの高い人を見て勝手に自分を振り回し続けていたと思います。ですが、様々な経験をした事でこれが自分の生きる道なのだろうと非常に納得して邁進することができています。約10年間という長大な大学生活を送った意味がありました。学生のうちに敢えて苦手な事にノーリスクでチャレンジし、向いていないと判定することが出来たことは、現在の自分の仕事に納得する上で財産となったと感じています。

色々偉そうに書かせていただきましたが、臨床医として働きたいと決まっただけで未だ何科の医師になるかは決めることが出来ていません。9年学生をやつてこの程度です。ひょっとすると私が決断力がないだけかもしれませんが、誰しも大学生のうちに自分が何者になりたいかを決めることは難しいのだと思います。実際私の周りの社会人5,6年目の高校同期も多くが転職しながら生き方を考えている人が大半です。大学生のうちにはきっと就活やインターンなどで将来の決断を焦らされる場面ばかりだと思います。しかし、幸い人生100年時代とも言われています。色々勉強、経験しながら、将来変えてもいいやくらいの気持ちでとりあえずの進路を決めてもいいのではないのでしょうか。試行錯誤して失敗の許されるモラトリアムの日々を大切に生きていっていただければと思います。私も偉そうな口を叩ける立場ではありませんので精進して参ります。

(筑波大学附属病院研修医)